



群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー

Gunma Prefecture-wide Education of Community-Based Nursing Leaders
Community-based integrated nursing education



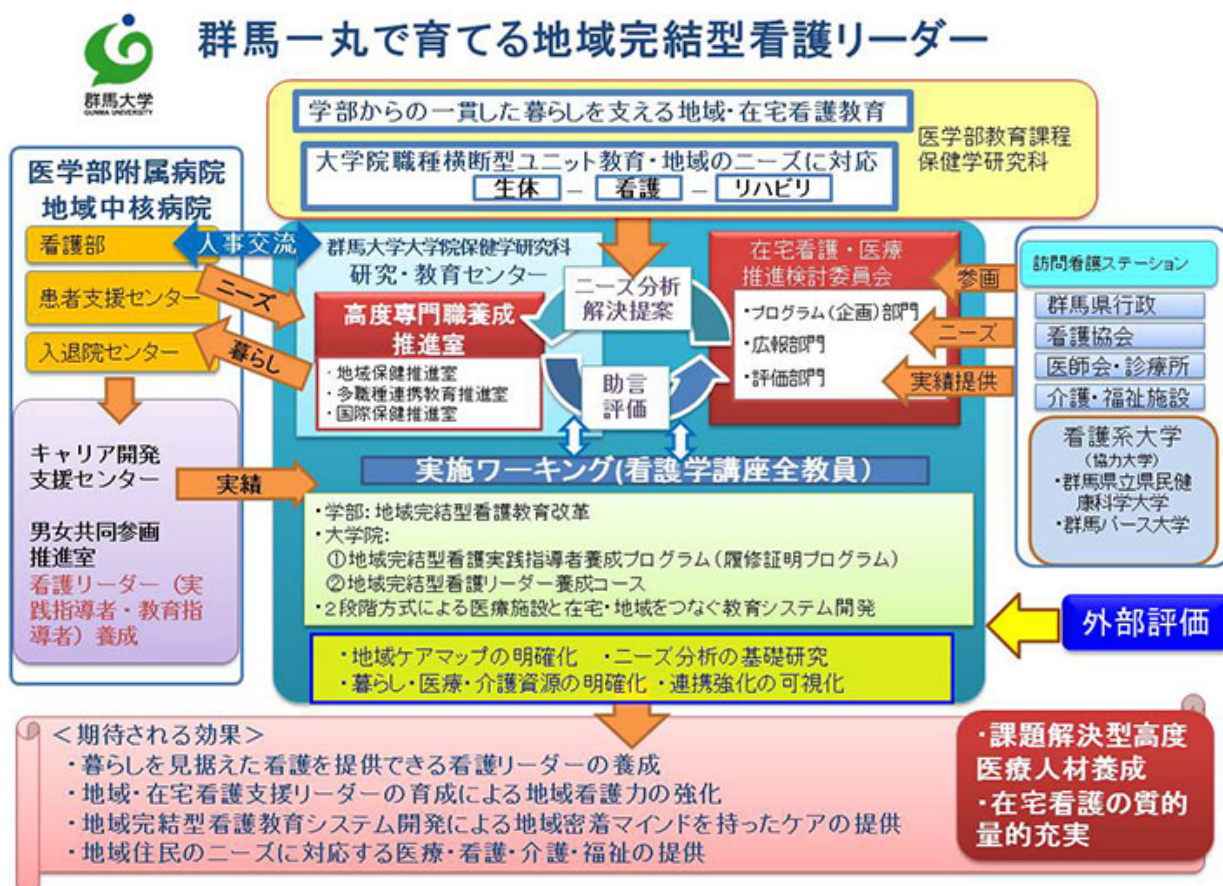
本事業は平成 26 年度文部科学省 GP「課題解決型高度医療人材養成プログラム」(別紙：課題解決型高度医療人材養成プログラム申請書)に、群馬大学大学院保健学研究科が全国 66 件の申請の中から採択され、その教育理念を引き継いだ教育を行っています。

本学の取組名称は【群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー】事業です。本プログラムでは、地域での暮らしや看取りまでを見据えた看護が提供できる人材養成の強化をしています。

教育の柱は、以下の通りです。

1. 学部教育における 1～4 年次の群馬大学独自の積み上げ方式教育プログラム
2. 大学院教育における【地域完結型看護リーダー養成コース(大学院コース)】
3. 病院・在宅・施設の看護師への現任教育における【地域完結型看護実践指導者養成プログラム(履修証明プログラム)】

<群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー養成の全体像>



1～4年次の群馬大学独自の積み上げ方式の教育プログラム、大学院教育として【地域完結型看護リーダー養成コース】、履修証明プログラムとして【地域完結型看護実践指導者養成プログラム】を開発し、地域に密着し暮らしを見据えた実践的な看護を提供・教育でき、かつ医療施設と在宅・地域をつなぐ人材を養成します。

養成方法は2段階方式をとる。第1段階は、暮らしに密着した看護支援と教育指導が系統的に提供できる養成プログラムにより、実践指導者、教育指導者の看護職リーダーを輩出する。第2段階は、養成した看護職リーダーが地域の核として、病院や地域の看護職に、対象者の暮らしを見据えた在宅看護の知識技術を普及させる指導者として活動を担う。さらに、養成した看護職リーダーによる学部教育への参画によって、循環型教育による地域完結型教育に取り組みます。

<学部教育>

看護学専攻における各専門分野の講義、演習、実習に在宅ケアマインドを養うための内容を加えた教育プログラムを平成27年度から実施しています。在宅ケアマインドとは、看護の対象者を「患者」ではなく「生活者」という視点で捉え、対象者一人一人の暮らしや看取りを見据えた看護を実践するという考え方です。1～4年次の積み上げ方式により暮らしや看取りまでを考え実践できる能力を養います。

1. 「在宅ケアマインド」の定義

地域完結型医療・ケアの考え方に立脚し、すべての人々が、適切なときに適切な場所で適切な医療やケアを受けながら、自分らしい療養生活を送れるよう、地域での暮らしや看取りまでを見据えた看護を実践する姿勢や意識のことです。

2. 卒業時の目的

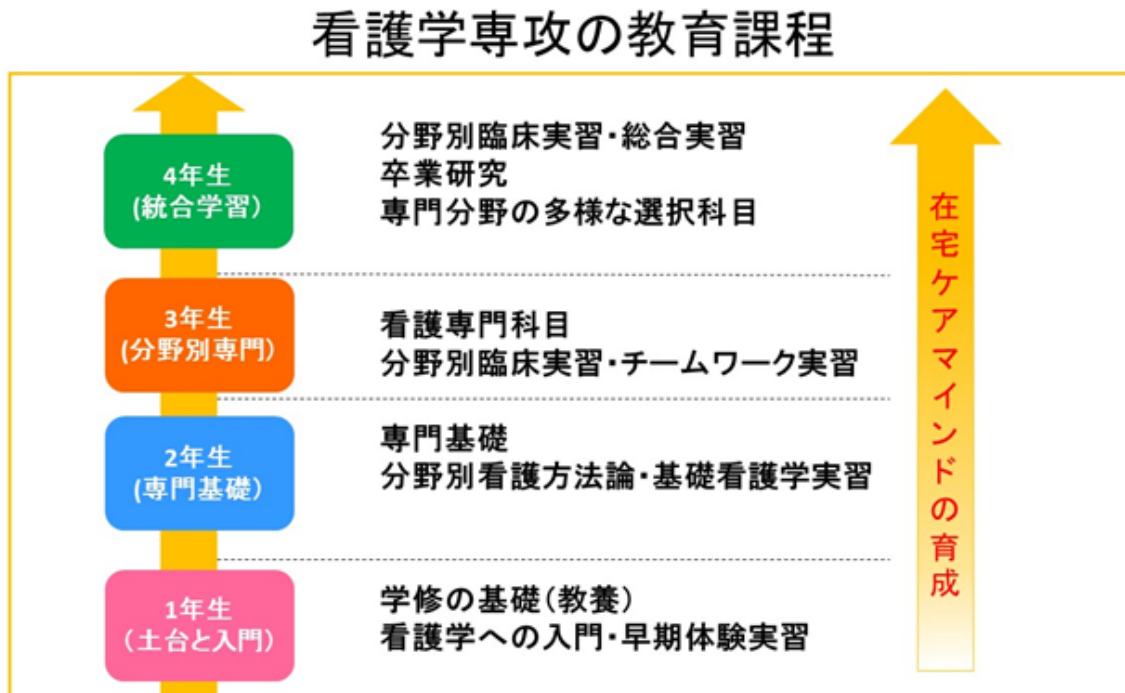
地域完結型医療・ケアの考え方に立脚し、すべての人々が、適切なときに適切な場所で適切な医療やケアを受けながら、自分らしい療養生活を送れるよう、地域での暮らしや看取りまでを見据えた看護を実践できる能力を修得します。

3. 卒業時の目標

- 1) 看護の対象者を「患者」ではなく、地域での「生活者」としてとらえ、施設内看護、外来看護、地域看護、在宅看護を実践できるようにします。
- 2) 一人一人の暮らしや生き方を尊重・理解し、個別性の高い支援を創造し実践できるようにします。
- 3) 対象者が適切な医療やケアを適切な場所で受けながら、自分らしい療養生活を送れるように、情報提供、意思決定の支援、退院調整、退院支援、在宅療養支援及び支援体制整備について理解し、指導を受けながら実践できるようにします。
- 4) 課題解決のために多職種との協働、地域を基盤にした医療保健福祉の人的物的制度的資源を活用する知識を持ち、指導を受けながら実践できるようにします。
- 5) 将来、療養生活支援の専門家として、支援チームの発展に貢献する方法を理解できるようにします。
- 6) 自己の生活スキルを確立することができるようにします。

4. カリキュラムマップと考え方

専門教育のスタートとして位置付けられている看護の基礎を学ぶ1年次の基礎看護学から、2年次の対象や場に応じた看護学を学ぶ成人看護学や精神看護学など、および看護を統合・発展させる科目の在宅看護学や4年次の看護学総合実習までの、すべての講義・演習・実習において「在宅ケアマインド」の目標を掲げ、到達できるように一貫教育を展開しています（下図）。各学年では最初に行う講義の時に「在宅ケアマインド」に関する説明を実施しています。



5. 1年次から4年次までのカリキュラム進捗

大切な考え方として、看護の対象論を学ぶ時に、一人の人格を持ち地域で生活を営んでいる「人間」として接することを掲げています。そのため1年次の到達目標としては、「対象者を『患者』ではなく、地域での『生活者』としてとらえることができる」や「一人一人の暮らしや生き方を尊重・理解できる」「自己の生活スキルを確立するために努力できる」ことを目標に掲げています。

6. 学生の生活スキルの提示とその強化

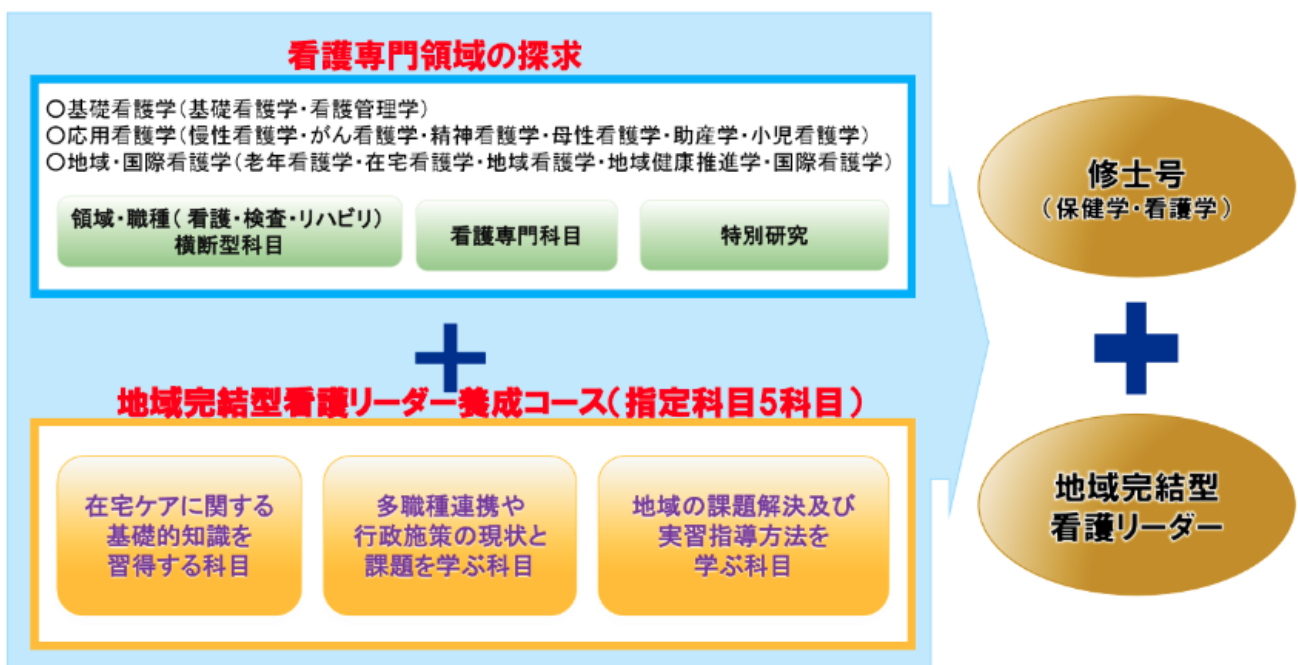
看護は人と人との相互作用の中で、ケアを提供していきます。すなわち対象者である「生活者」と医療・看護を展開する医療関係者そして介護や福祉、行政部門で働く関係者など多職種と協働しケアを提供します。そのためにはコミュニケーションをはじめとする生活のスキルを磨く必要があります。そこで何よりも自分自身の生活が自律・自立していることが不可欠です。これまでの当大学学生の問題点を協力大学の教員を含めFDにおいてディスカッションして、看護学生としてどのような生活スキルを確立してほしいのかを明確にしました。コミュニケーションスキル、礼儀・マナースキル、家事・暮らしスキル、健康管理スキル、問題解決スキルの5項目27内容を提示し、セルフラーニングを通して達成できるよう説明しています。教員においては各講義において在宅ケアマインドを強化する内容を毎年学生に示しており、それに基づき教育を展開しています。

<地域完結型看護リーダー養成コース(大学院コース)>

現在は開講していません

各自の看護専門領域を探求し、高度な知識と技術を修得するだけでなく、「地域完結型看護リーダー養成コース」の科目を習得することで地域・在宅・病院を切れ目なくケア提供するためのリーダー能力を養う、時代のニーズに応じて在宅ケアの視点を養い、地域の看護リーダーとして活躍することを目指して教育を始めました。

講師陣は、平成27年度にスタートした履修証明プログラムと同様に本学教員に加え、協力大学の教員、附属病院の臨床教授・准教授・講師、地域（訪問看護ステーション、行政、介護保健施設、開業医、薬剤師）からのゲスト講師とし、現場の最新の取り組みを学べるなど多彩性を盛り込んでいます。また、在宅ケアの基本的知識、多職種連携の実際、地域の課題解決及び実習指導方法を学ぶ機会を取り入れました。また、学生が仕事と学業を両立しやすいよう、土日集中講義制、eメール指導なども導入しました。



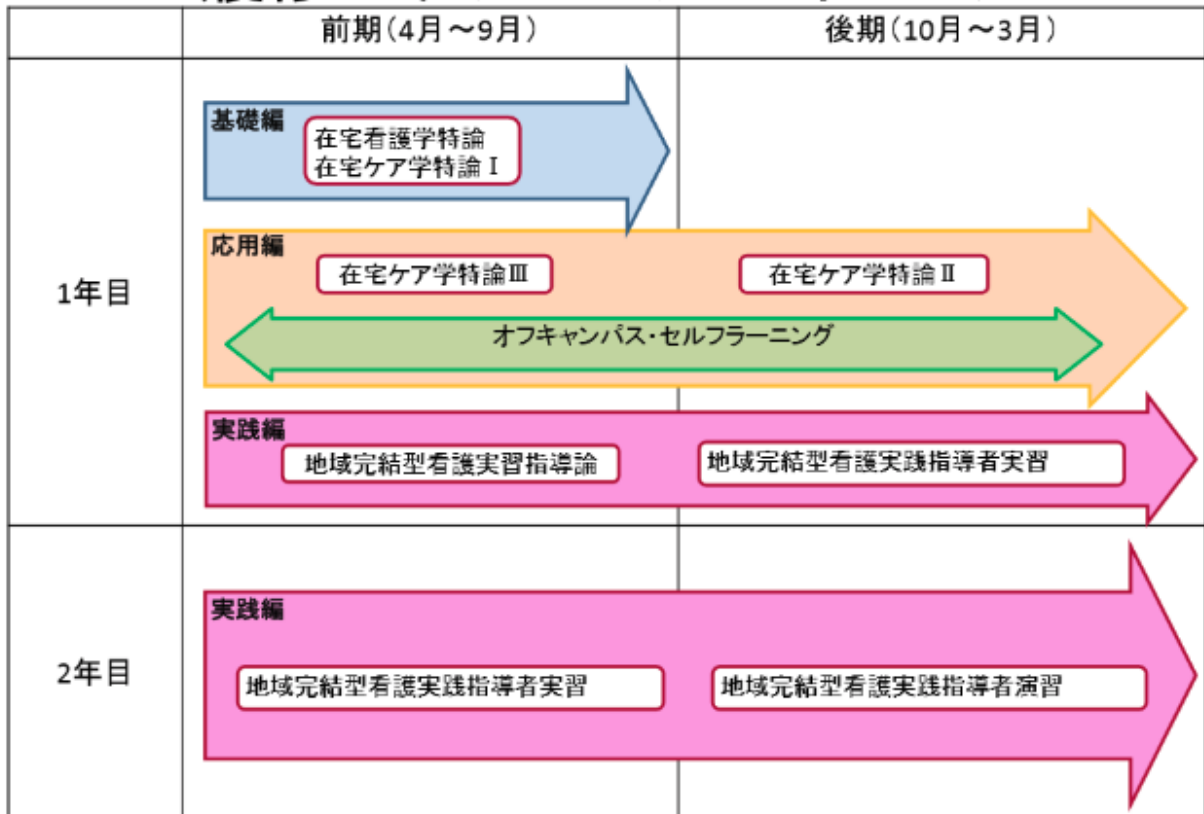
<地域完結型看護実践指導者養成プログラム(履修証明プログラム)>

現在は開講していません

このプログラムは、地域完結型医療・ケアの考え方に立脚した看護実践および教育ができ、多職種連携による課題解決能力を有する人材を養成します。基礎編 30 時間、応用編 30 時間、実践編 60 時間の計 120 時間以上のカリキュラムから構成されていて、2~3 年かけて履修しました。

授業は仕事と学業が両立しやすいよう夜間・土日の講義、eメール指導など多彩な教育方法・科目があります。また、各自が学会や研修会に参加した時間を本プログラムの時間数としました。

履修スケジュールのイメージ



その他の活動として、講演会の開催、人事交流など群馬大学から全国にも発信しました。また、事業の活動を踏まえて、地域完結型看護をめざした看護教育という著書をまとめました。